方針としたがいまして一応現行制度のもとで税収入額見積りを樹てた次第であります。

これによる税収見込額は

一、市民税においては昭和二十七年度比較算して大凡前年度の一三%の自然増収が予想され、即ち現年度分の税額総決算を基礎として、価格の上昇により約二一・二%増の三千四百五十万二千円を推算計いたしました。

三、その他の市税におきましては本年度殆んど大なる変動がありませんが、金額の市税を合計いたしまして、二千八百二十二万六千六百三十円の収入を見込んだ次第であります

市債

起債二千四百七十万円

市債に於きましては、政府は地方財政計画の策定に当って地方債の総額を本年度より約二・〇%減の八百五十億円と決定いたしましたが、当市の一般会計予算では昭和二十八年度の当初予算計上額三千八百十万円、うち本月まで確資の決定したもの二千六百六十万円、残り一千二百五十万円を推算計上いたしました。

二、この内訳は、政府は地方債の総額を本年度より約二・〇%減の八百五十億円と決定いたしましたが、当市の一般会計予算では昭和二十八年度の当初予算計上額三千八百十万円、うち本月まで確資の決定したもの二千六百六十万円、残り一千二百五十万円を推算計上いたしました。

三、その他の市税におきましては本年度殆んど大なる変動がありませんが、金額の市税を合計いたしまして二千八百二十二万六千六百三十円の収入を見込んだ次第であります

平衡交附金その他見込み（赤字）

二千四百万円

歳出において事務的経費を極力圧縮するに努めたのであります。

しかしながら、事務費に対しましても目下発展途上にある当市の現状に照応いたしまして、将来大都市市建設のための必要最少限度の費用を前述のように計上いたしたのであります。

しかもこれに対する財源を補足し得ないことであります。とありますことは、財政的処置をいたしまして、土地売却代に千五百万円、平衡交付金においても約九百万円の収入不確実財源を見込まるるを得なかったことであります。そして二〇の赤字財政については救済資金の内消をお願いする予算の執行に当っては起債補助金の増額確保はもとよりでありますが、他面歳出につても常に資金効果と既存の財政的使用に格段の努力をいたして、可及的予定事業を来たさない限度において、可及的予定事業の完全実施を計って参りたいと、理事者の、皆様方御意を計って参りたいと、理事者の、皆様方御意を計って参りたいと、理事者の、皆様方御意